

梶井基次郎

桜の樹の下には

桜の樹の下には

桜の樹の下には屍体したいが埋まうっている！

これは信じていいことなんだよ。なぜって、桜の花があんなにも見事に咲くなんて信じられないことじゃないか。おれ俺はあの美しさが信じられないので、この二三日不安だった。しかしいま、やっとわかるときが来た。桜の樹の下には屍体が埋まっている。これは信じていいことだ。

どうして俺が毎晩家へ帰って来る道で、俺の部屋の数ある道具のうちの、選りに選ってちっぽけな薄っぺらいもの、安全剃刀の刃かみそりなんぞが、千里眼のように思い浮かんで来るのか——お前はそれがわからないと云ったが——そして俺にもやはりそれがわからないのだが——それもこれもやっぱり同じようなことにちがいない。

いったいどんな樹の花でも、いわゆる真っ盛りという状態に達すると、あたりの空気のなかへ一種神秘的な雰囲気まを撒き散らすものだ。それは、よく廻まわった独楽こまが完全

な静止に澄すむように、また、音楽の上手な演奏がきまつてなにかの幻覚を伴うように、灼しやく熱ねつした生殖の幻覚させる後光のようなものだ。それは人の心を撲うたずにはおかない、不思議な、生き生きとした、美しさだ。

しかし、昨日、一昨日、俺の心をひどく陰いん気きにしたものもそれなのだ。俺にはその美しさがなにか信じられないもののような気がした。俺は反対に不安になり、憂鬱ゆううつになり、空虚な気持になった。しかし、俺はいまやつとわかった。

お前、この爛漫らんまんと咲き乱れている桜の樹の下へ、一つ

一つ屍体が埋まっていると想像してみるといい。何が俺をそんなに不安にしていたかがお前には納得がいくだろう。

馬のような屍体、犬猫ねこのような屍体、そして人間のよ
うな屍体、屍体はみな腐爛ふらんして蛆うじが湧き、堪たまらなく臭い。
それでいて水晶のような液をたらたらとたらしめている。
桜の根は貪婪どんらんな蛸たこのように、それを抱だきかかえ、いそぎ
んちやくの食糸しょくしのような毛根を聚あつめて、その液体を吸っ
ている。

何があんな花卉を作り、何があんな蕊ずいを作っているの

か、俺は毛根の吸いあげる水晶のような液が、静かな行列を作って、維管束いかんそくのなかを夢のようにあがってゆくのが見えるようだ。

——お前は何をそう苦しそうな顔をしているのだ。美しい透視術とうしじゆつじゃないか。俺はいまようやく瞳ひとみを据すえて桜の花が見られるようになったのだ。昨日、一昨日、俺を不安がらせた神秘から自由たにになったのだ。

二三日前、俺は、この溪たにへ下りて、石の上を伝い歩たきしていた。水のしぶきのなかからは、あちらからもちらからも、薄羽うすばかげろうがアフロディットのよう

まれて来て、溪の空をめぐがけて舞い上がってゆくのが見えた。お前も知っているとおり、彼等はそこで美しい結婚をするのだ。しばらく歩いていると、俺は変なものに出喰でくわした。それは溪の水が乾いた磧かわらへ、小さい水溜みずたまりを残している、その水のなかだった。思いがけない石油を流したような光彩が、一面に浮いているのだ。お前はそれを何だったと思う。それは何万匹びきとも数の知れない、薄羽はねかげろうの屍体だったのだ。隙間すきまなく水の面を被おおつている、彼等のかさなりあった翅はねが、光にちぢれて油のような光彩を流しているのだ。そこが、産卵を終わった

彼等の墓場だったのだ。

俺はそれを見たとき、胸が衝つかれるような気がした。墓場を発あばいて屍体を嗜たしなむ変質者のような残忍なよろこびを俺は味わった。

この溪間ではなにも俺をよるこぼすものはない。鶯うぐいす

や四十雀しじゆうからも、白い日光をさ青おに煙らせている木の若芽も、ただそれだけでは、もうろうとした心象に過ぎない。俺には惨劇が必要なんだ。その平衡へいこうがあつて、はじめて俺の心象は明確になって来る。俺の心は悪鬼あつきのように憂鬱に渴あいている。俺の心に憂鬱が完成するときにはばかり、

俺の心は和なごんでくる。

——お前は腋わきの下を拭ふいているね。冷汗ひやあせが出るのか。それは俺も同じことだ。何もそれを不愉快がることはない。べたべたとまるで精液のようだと思ってごらん。それで俺達の憂鬱は完成するのだ。

ああ、桜の樹の下には屍体が埋まっている！
一体どこから浮かんで来た空想かさっぱり見当のつかない屍体が、いまはまるで桜の樹と一つになって、どんなに頭を振ふっても離れてゆこうとはしない。

今こそ俺は、あの桜の樹の下で酒宴をひらいている村

人たちと同じ権利で、花見の酒が呑め^のそうな気がする。

(昭和三年十月)

日本文学電子図書館

「梶井基次郎 ちくま日本文学028」

著 者：梶井基次郎

制作者：宮澤一郎

出版社：筑摩書房

2008年11月10日 第1刷

日本文学電子図書館